



防災講演会

命を守るために

6月5日(日)、中央公民館において、鹿児島県の防災アドバイザーを務める鹿児島大学井村隆介准教授を講師に招き、防災講演会を開催しました。

東日本大震災の教訓を継承し、町民一人ひとりが震災を忘れず、津波による災害への備えの充実を図るため開催したもので会場には、住民ら約150人が参加しました。講演会に先立ち、本町から岩手県大船渡市に復興支援チームの一員として派遣された職員(保健福祉課 山下琢磨)による活動報告が行われました。

報告では、「現地で見えた光景と経験を、今後町民の皆様へ伝えることが使命です。地域の防災意識向上につなげたい」と述べました。

講演会では、井村准教授が自らの地震に関する研究に基づき講話が行われました。

「普段から災害に備えることが大事。避難経路の確認や災害に応じた避難場所を決めているだけで、生存率が上がる。また、地域力がキーポイント。自主防災組織の設立に満足せず、その後の活動が重要。形だけの避難訓練でなく、的確・迅速な意思決定と行動を起こしていくことが、災害時の被害を最小に抑えることにつながる。」と話されました。

また、自然の生い立ちを知り、将来に備えることが「命を守る」ことにつながる。「災害は忘れた頃にやってくる」といわれるが「災害を忘れなければ防がれる」と防災についての考えを述べました。

津波てんでんこ

『津波てんでんこ』とは、日本の東北地方の三陸海岸地域にある津波防災伝承の一つです。

「津波が来たら、肉親に構わず、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」がこの伝承の本来の意味。

今回の講演で紹介されたことばですが、岩手県大船渡市で復興支援にあたるチームには、はじめに教えられる言葉です。

現地では、いまだ余震も続くことから「自分の命は、自分の責任で守れ」も含意しているとされ、自分自身は助かり他人を助けられなかったとしてもそれを非難しない、不文律にもなっています。



講師 鹿児島大学理学部
准教授 井村隆介氏

【講師プロフィール】
鹿児島大学大学院理工学研究科
地球環境科学専攻准教授
役職 鹿児島県防災アドバイザー
国交省緊急派遣ドクター
霧島市ジオパークアドバイザー

東日本大震災に伴う義援金のお礼

役場、野方支所、あすばる大崎で受け付けております義援金について、皆さまからのあたたかいご協力を頂きましてありがとうございます。

また、各種団体、自治公民館、個人の皆様から大崎町社会福祉協議会へ多くの義援金が届きました。

平成23年6月1日現在、合計4,915,815円が集まり、日本赤十字社へ送金されました。

※紙面上で寄付者の皆様をご紹介する予定でしたが、大勢の方々にご協力いただいたことから、掲載することが困難になりました。

大変申し訳ございませんが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

▼写真は、岩手県大船渡市の港警備班の作業場所 第11班撮影

市内の港に被害を受けた車両が、約2600台集められています。

ここでの作業は、車や貴重品(車検証など)を探しにこられる方の受付です。

なかには行方不明者の手がかりを探しにこられる方も多く、車両搜索の手伝いを行っています。



がんばろう日本